『たをたをと』寸評

・やりたいことがきわめて明快に伝わってくる

・楽器の選択、Fl.の低い音域も情趣を添える

・管楽器へのていねいなディナーミクとアーティキュレーションの
指示は、奏者にさらなる演奏解釈の余地を与える

・ギターの刻々と変化する伴奏も曲想を豊かに彩る

・タイトルからのイメージの広がりも曲の内容と適切

完成度をさらに上げるために

・弦をはじく楽器には、基本的にスラーを使わない

・スラーを使うのは隣接音へはじき直さないで移動する奏法の時だけ

・Fl.フレーズの中を でふくらませたい場合
前後にディナーミクを振らなくても奏者は言わんとすることを
理解できる

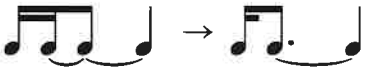
・したがってm.1-5はm.1に*mp*を1つ振るだけで大丈夫
m.12-16も同様にm.12に*mp*を振るだけでよい

・m.7 b.2 ギターD♯はEの方がEmらしく響く

・m.7 b.1-2 ベースを変えてEm/Bでもよい

・m.12 *poco rit.* したい　一呼吸おいてm.13に戻る

・m.16 ギターのアルペジオがややせわしないので
静かに終わるエンディングでも雰囲気が出そうだ

・m.1-2とm.13-4, b.3-4の記譜 

・m.9 ギターに第3音のソがほしい

m.＝measure 小節番号のことです。
b.＝beat 拍のことです。

特にm.12の表情がすてきで決まってます。

持麿勉